

藝園草牧

第十八卷・第十一号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認
昭和四十五年十一月一日(毎月一回一日発行)

夕張郡長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場

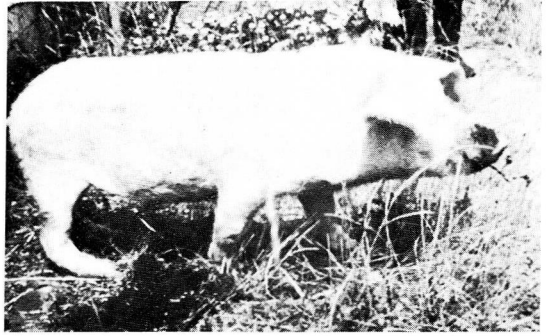


雪印種苗株式会社

豚の病気のいろいろ I

代謝障害

クル病



二重関節，飛節のゆるみ異常歩様

成長期の子豚に発生するもので、カルシウムとリンの代謝障害によっておこる骨の病気である。

原因としては、腸管からのカルシウム吸収が不十分な場合と骨格カルシウムが過剰に排泄される場合がある。これには、ビタミンDの欠乏、飼料中のカルシウムやリンの不足、または不均衡、腸疾患、慢性の腎臓疾患および副甲状腺ホルモンの分泌亢進などがあげられる。

症状は緩慢にあらわれるのが特徴的で、初期には異物嗜好、下痢などがみられるが、症状が進むにつれて二重関節、脊柱弯曲、犬座姿勢、集合姿勢などの特異な恰好や歩様の異常などを呈する。

予防法は原因の項を改善することがすべてであり、良質蛋白飼料の給与、カルシウム分、ビタミンDの供給および日光浴が大切であるほか、幼齢期中の慢性下痢、寄生虫感染、皮膚病などが誘因となる場合が多いので、注意せねばならない。

病豚はなるべく日光にあて、飼料構成とくにカルシウムとリンの均衡を工夫するとともに胃腸の調整につとめることが大切で薬物療法としてはカルシウム剤やビタミンAD剤が効果的である。

パラケラトーシス



パラケラトーシス豚の後肢にみられる皮膚病変

本病は生後7～20週齢の子豚に多くみられ、急速に成長する時期に発生する。原因はよく解っていないが、食餌性でとくにカルシウムと亜鉛が関係するだろうといわれている。

症状は、はじめ肢の皮膚に小範囲(3～5cm)の潮紅がみられ、その後湿ったやや粘稠な濃褐色物質がみられるようになる。これは皮膚表面の角化が不完全なため、後に乾いた痂皮が生じ、皮膚面はザラザラした顆粒状隆起となる。病豚は不快感とか痛みは訴えない。病変はまず肢の皮膚から現われ、踵、飛節、球節、距部を侵かし、ついで鼻吻、眼瞼、耳、肩、背、腰、股、膝、下腹に起こる。軽症のものでは食欲、採食量に変化はないが、重症では食欲減退と体重減少があつて、ヒネ豚となる。また、雌豚の方が去勢豚より罹りやすいといわれている。

病理組織学的には、皮膚乳頭の過形成および有棘層の肥厚、角化不完全なケラチン層の肥厚、脱毛、顆粒層の欠如、厚い(5～7mm)パラケラトーシス層における核残存と細胞破片の混合が特徴である。

診断は角化層の核残存を確かめることである。飼料中の高カルシウムと必須脂肪酸(おもにリノレン酸)欠乏とが重なるとパラケラトーシスが悪化する。また飼料の低カロリー、亜鉛、必須脂肪酸の欠乏などで発病し悪化する。予防および治療には飼料中のカルシウムは0.65～0.75%を維持し、硫酸亜鉛を25～50ppmあるいは10%アルファルファーミールを投与する。